

2021 年度事業計画

2021 年 3 月 23 日

学校法人 富澤学園

学校法人富澤学園のミッションとビジョン

<ミッション>

「敬・愛・信」の建学の精神の下で、人を敬い、愛し、信じる態度を持ち、人に敬われ、愛され、信じられる人間を育成する。

<ビジョン>

○山形の地で、幼稚園教育、高等学校教育及び大学教育を相互に連携して実施して、人材育成を通して地域の発展に貢献し、県内唯一の総合学園としてのブランドを確立する。

○より良質な教育を提供することにより、保護者及び生徒・学生から選ばれる学校となる。

○経営の効率化を進め、財務基盤を安定させて、末永く存続できる学校法人となる。

「学校法人富澤学園第2期中長期計画（2020年3月27日制定）」から抜粋

【1】 法人本部の事業計画

○総合学園としてのブランド力の強化

幼稚園、高等学校、短期大学及び四年制大学を擁する山形県内唯一の総合学園としての魅力や強みを活かし、法人本部と各校園が密接に連携して、学校法人富澤学園のブランド力の強化に取り組む。

特に 2021 年度は、法人内の「広報小委員会」を活用しつつ、法人本部と各校園が相互の理解を深めながら、法人全体で戦略的な広報と情報発信を行う。その一環で、学園のホームページを充実させるとともに、周年事業の計画を策定し、その広報活動を進める。

○外部資金の獲得と経費の節減

各校園の教育・研究・保育活動が十分に展開できるように、補助金を積極的に獲得する。税の優遇制度を十分に活用して、2021 年度から開始する寄付金募集事業を推進する。

経費支出については、引き続き、法人全体で節減に取り組む。特に、施設の整備と維持管理については、実施事業の内容を精査するとともに、予算を効率的に執行する。

○法人財務の健全化に向けて

経費支出の点検を継続的に行って、限られた資金の有効活用を図り、法人の経営状況を改善する。

課題となっている「経常収支差額」と「運用資産から外部負債を差し引いた額」については、2020 年度から開始した「経営健全化緊急対策」に取り組むことによって、2021 年度中に黒字化を達成する。

【2】 東北文教大学・東北文教大学短期大学部の事業計画

○不断の教育改革

どこよりもあたたかい指導に基づく教育を行う大学を目指し、「きめ細かな教育体制」「個別指導の充実」「学びの成果の振り返り」「自己肯定感の醸成」などを指導の軸に、①学びの質保証と達成感の把握、②授業外学びの教育支援 ③正課外活動の充実、④退学者数や留年者数が少ない状況の維持に取り組む。

①については、学修成果等アンケートの実施、人間科学部における入学時アセスメントテストの実施、リメディアル科目の開講、全学に対する学修支援センターの活動等を継続しつつ、2020年度から実施した学修成果の質保証とその可視化について点検評価する。②については、遠隔授業の経験を踏まえICTの活用を前提にした支援を開始する。③については、部活動やボランティア活動への金銭的支援と表彰制度及び連絡協議会を継続しつつ、大学生活へモチベーションをより高めるため、各部局や連絡協議会における学生からの要望にはすみやかな対応を図る。④については、学生動向の把握及び学生面談や保護者面談を継続しつつ、「合理的配慮」を要する学生への支援の充実を図る。

○学科新設・改組による教育研究の充実・発展

人間科学部については、従来の保育者や小学校教員の養成を主たる目的とする「子ども教育学科」に加えて、総合的教養教育型の新学科「人間関係学科」を設置して2学科体制となる。「留学生別科」は短期大学部から人間科学部に移る。それぞれの特色を活かしながら学部の実・発展を図る。

短期大学部については、人間福祉学科から名称変更した「現代福祉学科」が新たにスタートし、既存の「子ども学科」とともに2学科体制になる。各学科の特色を活かしながら充実・発展を図る。また、短期大学部は、今年度短期大学基準協会の認証評価を受ける。そのために必要な書類を作成するとともに、認証評価を契機に一層の充実・発展に取り組む。

また、大学に研究開発センターを設置し、教職員の専門性を活かしながら、大学総体として研究開発に取り組む。

○進路支援

就職に向け学生の意識を高め志望動機を明確化するため、「教員職」「一般職」「保育専門職（保育・幼児教育）」「介護福祉専門職」など領域別に毎週開催している進路ガイダンスを継続する。新学科学生の進路支援のあり方について、人間関係学科と進路支援センターで検討を進める。

学生の就労意欲を高めるため、例年実施している「企業研究会」「保育職就職セミ

ナー」「福祉就職セミナー」を計画する。また、一般職希望者を対象としていた「企業研究会」は就職活動充実のため、大学と短期大学部を同一期に設定する。

各種就職試験合格率を向上させるため、進路支援センター、教職実践センター、学修支援センターが綿密に連携し対応する。

大学院および3年次編入学の進学希望者については、入試条件に応じた個別支援を行う。

○富澤学園ブランド力の強化 ―大学ブランド力向上の取り組み―

「学生と教職員の距離の近さ」「学生一人ひとりを大切にする」などのメッセージを通して、本学の強みである「ていねいな教育・支援」について、引き続き発信していく。また、前年度、広報イベント縮小等の影響で機会を得られなかった「地元進学のメリットを伝える卒業生の事例」を紹介する場を増やすことで、大学のイメージ作りを進めていく。

○定員充足率向上

人間科学部については、2021年度入学者選抜の結果を踏まえ、「子ども教育学科」は、引き続き学科の教育目的に応じた適切な入学者を確保する。「人間関係学科」は、選抜方法の内容を適切に評価しつつ、より効果的な入試広報を進めることで定員を確保する。

短期大学部も同じく、2021年度入学者選抜の結果を踏まえ、「現代福祉学科」は、前年度十分に行えなかった新規志願者の発掘を目指したアプローチを積極的に展開する。

「子ども学科」は、引き続き学科の特色である実習を核とした教育内容・方法をアピールする。

また、中学生を対象とした保育や介護のワークショップを実施し、専門職の魅力を発信し、保育職や介護職を目指す生徒の発掘を行う。

○教育環境の充実・整備

教育研究用備品等の充実を図るとともに、教育研究環境を継続して整備する。特に2021年度は、3号館の内壁改修工事及び6号館の空調設備改修工事を行う。

【3】 山形城北高等学校の事業計画

○ 学校経営

2020年度より取り組んでいる学校改革については、以下の3つの事項について具体的取り組みを検討・実施する。

- ① 普通科に設置する3コース及び特進科の充実策について
- ② 進路達成を支える学力充実策について
- ③ 学校挙げて取り組む特色ある活動について

また、校務分掌を一人2分掌制にすることで、組織の硬直化を解消し、自身の成長を促す機会を与えながら、学校全体の活力につなげていく。

働き方改革法を踏まえた勤務時間の管理については、2020年度後期より勤怠管理システムを導入し、一人一人の勤務状況について把握できるようになった。今年度はその運用を通して変形労働時間制について検討する。

また、これまで常勤職員のみを与えていた一人一台PCを非常勤職員にも貸与することで、個人情報の保護等、セキュリティの強化を図る。

さらに、学校課題を踏まえた予算の選択・集中とコスト意識の徹底により、財政健全化を図りながらも教育の質を落とさないような学校経営に努める。

○ カリキュラムマネジメント

2020年度末に策定した本校の「グランドデザイン」及び「教育理念」に基づき、重点目標である「ICTを活用した個別最適な学びの提供」と「社会とつながる協働的な学びの実現」を達成するため、以下の3点に重点的に取り組む。

なお、新教育課程の編成については、5月末までに完成させることとする

① ICTを活用した授業改善

2020年度に整備した高速通信環境を活用したICT教育を推進するため、2021年度より年次進行で教室へプロジェクターを設置する。また、すべての教員がPCとプロジェクターを活用した授業を行えるようにするため、校内研修会を実施する。さらに、個別最適な学びを提供するための授業支援ソフトの導入について検討する。

なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭のPCや生徒のスマートフォン等を活用してホームルームや面談、一部科目でオンライン授業を実施した。2021年度については、感染状況を見ながら臨機応変に対応する。また、国のGIGAスクール構想を踏まえ、今年度は一人一台PCの在り方等を検討する委員会を設置する。

② 「総合的な探究の時間」の研究・実践

「総合的な探究の時間」については、新学習指導要領の本格的な実施に先行して取り組んでおり、本校では学年が主体となっている。それを学校全体のものとするために、昨年より東北芸術工科大学企画構想学科の山下英一教授の指導を仰ぎ、改善に向けた検

討を進めている。地域のヒト・モノ・コトに目を向けた探究活動により、ふるさとを愛し、将来地域や社会に貢献しようとする態度を養うことを目標にしながら、社会とつながる協働的な学びについて具体化を図る。

③ 多面的評価に関する研究

新学習指導要領では、3観点による多面的評価の導入や指導要録に記載する欄が設けられるなど、現行とは大きく異なる学習評価が求められている。そこで本校では、(株)ベネッセコーポレーションと共同研究を進める中で、先進校の取り組みに学ぶとともに、学習評価が生徒の学習改善や教師の指導改善につながる支援になるよう研究を進める。

○ 進路支援

本校生の卒業後における進路については、大学・短大への進学が約5割、専修学校への進学が約3割、就職が約2割という状況になっている。コロナ禍にあって、オープンキャンパス等、様々な体験活動が困難な状況の中、各学年ともキャリア教育をより一層充実させる。また、進路達成を支える学力等の養成については、授業はもとより放課後の時間を活用したプログラムの提供など、その充実策を検討・実施する。

○ 富澤学園ブランド力の強化

富澤学園を構成する校園のブランド力を向上させるため、高校名の変更について、4月にアンケートの実施、5月に高校案の決定、6月に評議員会・理事会への提案というスケジュールで進める。

また、東北文教大学・短期大学部との連携については、入試という接続だけに限らず、教員間の情報交換や相互研修、生徒と学生の交流など、その具体化を図る。さらに、新コースにおける幼児教育系、福祉系において、附属幼稚園や「社会福祉法人敬愛信の会」との連携について、どのような取り組みが可能か検討する。

○ 定員充足率向上

2019年度に少子化の進行を踏まえて募集定員の適正化を図ったが（420名➡340名）、前述した学校改革と授業改善を力強く進めることで定員充足率の向上を図る。

広報活動については、分かりやすく興味を引く学校案内や動画の作成、ホームページの更新、各種メディアへの掲載など積極的な情報発信に努める。また、募集活動における丁寧かつ真摯な対応を基盤として、中学校との信頼関係の構築に力を入れる。

○ 教育環境の充実・整備

教育用備品等の充実を図るとともに、教育環境を継続して整備する。特に2021年度は、体育館1階トイレの改修工事を行う。

【4】東北文教大学付属幼稚園の事業計画

○教育内容充実

2022 年度に開催される「東北地区私立幼稚園教員研修大会」の分科会担当園として、研鑽を積み、さらに質の高い保育を目指す。「幼小連携」の大切さを前面に打ち出し、PDCA を重視した「カリキュラムマネジメント」に力を入れていく。

2 年間の講師として、新学習指導要領の編集に携わった大学教授と村山教育事務所指導主事を講師に招聘して、理論と実践を重ねながら研鑽を積んでいく。

○保護者との連携

週 5 日制とし、水曜日の軽食を通常の給食と同等の食事を提供することにより、預かり保育のお弁当をなくし、保護者負担軽減を図る。また、給食試食会を年次毎に計画していく。「食育」と併せ、自園給食の良さ・素晴らしさを保護者からも内外に発信してもらう。

子どもの日々の成長を記録した連絡帳での報告を実践する。保護者と教職員との信頼関係を一層深め、家庭での会話に繋げて、子どもの成長をともに促していく。

○定員充足率向上

5 台目のバスを嶋地区・飯塚地区に走らせ、新たな募集地区開拓を目指して積極的に宣伝しながら、園児確保に向けていく。

2022 年度以降入園する乳幼児を対象に行っている地域提供事業「ちびっこひろば」を今年度も計 10 回開催し、幼稚園の楽しさを十分に味わってもらう。

ホームページの動画等を通して、下記の本園の特色ある教育を発信していく。

- ① 子どもの「主体的な遊び」を大切にした教育の推進
- ② 豊かな食事を通した「食育」の推進
- ③ 自分の健康を自分でつくる「健康教育」の推進

○富澤学園ブランド力の強化

園児募集地区の拡大と豊かな「食育」・「健康教育」の推進を図り、県内外に発信できる教育内容のさらなる充実をめざす。ホームページでの動画配信やお便り等の掲載を随時行い、日常の質の高い保育内容発信でブランド力を高めていく。

また、大学や高校との密接な連携を P R し、教育実習や保育体験学習など、他園にない良さを打ち出していく。

○教育保育環境充実・整備

教育保育用備品等の充実を図るとともに、教育保育環境を継続して整備する。特に2021年度は、バス乗車時間減少による通学園児の負担軽減と募集地区拡大を目的に、新たに5台目のバスを購入し運行する。